

おてや 落谷の洞窟で彼岸行事

志佐町赤木地区にある落合の洞窟で3月20日、無病息災を願う彼岸行事「おこぼ様」が行われました。

「おこぼ様」は「弘法様」がなまったものといわれ、毎年、同地区の彼岸行事として受け継がれています。

洞窟は高さ約2[㍓]、幅30[㍓]、奥行き10[㍓]ほど。入り口には弘法大師が祭っており、奥には40体以上の地蔵が並んでいます。洞窟へ向かう参拝道途中の橋が2年前の大雨で崩壊していましたが、この日のために建設業の団体「川西会」などボランティアが仮設橋を設置。3年ぶりに洞窟内に地区住民が集まりました。

この日は、ろうそくの明かりに照らされた洞窟に参拝者が訪れ、無病息災を祈願しました。



小学生がプロの音楽に触れる

ソプラノ歌手の大森智子さんとピアノ奏者の白石光隆さんが、3月4日に調川小で、6日に今福小でアウトリーチコンサートを行いました。

アウトリーチとは、子どもたちが音楽などに親しむきっかけになればと、学校の教室や音楽室などの小スペースで行う演奏活動などのこと。5日に文化会館で開催される「ピアノ&ソプラノ（声楽）の夕べ」の出演者の2人が、各小学校で行ったものです。

4日の調川小では、5、6年生が参加し、2人がソプラノとピアノの演奏を披露。また、大森さんと一緒にオペラに挑戦したり、白石さんが解体したピアノで構造を学んだりして、楽器や歌の魅力に触れました。

また、5日の文化会館での公演では、澄んだ歌声



とピアノ演奏で、会場に訪れた約160人の観客を魅了しました。

親子で 交通安全を学ぶ

第32回パンダクラブ親子大会が2月25日、市役所市民ホールで行われました。

同クラブは、交通ルールへの関心を高め、親子ぐるみで交通事故防止を図ることを目的に毎月活動しています。

この日は、各地区のパンダクラブに所属する親子約15人が参加。交通安全指導員の指導を受けながら、パンダクラブで学んだ横断歩道や踏み切りの渡り方などを、遊びを交えながら学びました。

また、大会の最後に代表の河内健悟君（調川・調川雇進、3）、川内歩夏さん（志佐・田ノ平、3）、安永佳純さん（御厨・西木場、3）が「交通安全のお約束」を宣言し、交通安全を誓いました。



まちの話題



音楽祭で楽しいひととき

「一人暮らしのお年寄り・高齢者との昼食会・今福町民音楽祭」（今福地区社会福祉協議会と今福公民館の共催）が2月22日、今福公民館で開催されました。

音楽などを通して世代間交流を深めようと、70歳以上の一人暮らしや80歳以上のお年寄りを招待して、毎年開催しています。

音楽祭では、今福保育所の園児や今福小・中学校の児童・生徒、公民館利用者などが遊戯や合唱、日本舞踊などを披露。今福町婦人団体連絡協議会の手作り弁当も振る舞われ、参加したお年寄り約150人は楽しいひとときを過ごしました。



合唱や吹奏楽を披露

松浦少年少女合唱団（八谷博子代表、19人）と御厨中学校吹奏楽部（松永友季顧問、18人）が3月9日、御厨公民館で「サンキューこんさあーと」を開催しました。

同吹奏楽部の保護者が、周囲の人への感謝を込めて同合唱団に呼びかけ企画。発表曲の「3月9日」と開催日にちなみ「サンキューこんさあーと」と題して開催したものです。

同合唱団は、「ごんぎつね」など8曲の合唱や「くるみ割り人形」のミュージカル劇を、同吹奏楽部は、「3月9日」など7曲の演奏を披露。集まった約120人の観客は、日ごろ耳にすることの少ない吹奏楽の生演奏と合唱に、興味深そうに聞き入っていました。



猿回しの演技に歓声

「薩摩の猿回し劇場」が3月15日、今福保育所（梶島洋子所長）を訪れ、猿回しを披露しました。

同保育所が、地域に根ざした保育を目指し、親子間や世代間の交流と園児の思い出づくりなどを目的に開催したものです。

この日は、同保育所の園児や保護者のほか、地域のお年寄りなど約300人が来場。雄猿のゴクウが、輪抜けやジャンプなどを披露すると、集まった観客から拍手や歓声が上がっていました。

また、演技が終わると、子猿のジミーと参加者との握手会も行われ、園児たちは笑顔で握手を交わしていました。



笑顔でブロッコリーを収穫

星鹿小学校（中田順子校長、103人）の3年生と、松浦青年農業者会（白石健一会長、10人）の会員が3月5日、同校の中庭の畑でブロッコリーの収穫体験を行いました。

松浦青年農業者会の食育活動の一環として、昨年9月にブロッコリーの苗約120本をもらった児童が、植え付けから水やりや雑草取りの世話を続けてきました。

この日は、同会のメンバーなどから指導を受けながら、包丁を使って収穫しました。

収穫を行った平本優佳^{ゆか}さんは「収穫は楽しかったです。野菜は大好きなのでブロッコリーを食べるのが楽しみです。また何か育ててみたいです」と話していました。

収穫後には試食会を開き、取れたてのブロッコリーを笑顔でほおばっていました。

助成を受け送迎用車両を購入

身体障害者通所授産施設「福祉の里 松浦作業所」（田中廣太郎理事長）が、（財）中央競馬馬主社会福祉財団の助成を受けて、送迎用車両を購入しました。

送迎車は、10人乗りのワゴン車で、後部座席スライドドアの開閉に合わせ、乗降口のステップが自動で出入りします。

同施設は、現在33人が利用しており、^{たこ}風の製作などを行っています。

田中理事長は「これまでの送迎車が老朽化していたため、新しい送迎車を購入できたことで、施設利用者も安心して利用できます」と話していました。

